



定價一銀

公私雜報
第六號



西垣文庫
文庫 10
7290
6



伏稟

迷子まかど 父落かつかち 落物おちもの ちりひ物 盗ぬすまを
及び諸賣もの等を多く廣く世に弘め或は
問う便りを得たきやうに少しも遠慮な
く其よりくの書林又を繪草子屋に事が
を委しく書きたるし出遣えして其の速
出板しゅばんしる四方に告ぎ知らせ中を急ぐは

辰四月

公私雜報會社

西垣文庫



公私雜報第六號

慶應四年閏四月十三日

○閏四月三日出板横濱新聞より鈔出

西洋第五月八日及び九日我四月十七日 南方の

軍勢凡八百人程北方兵の爲に謀らば伏兵に陥
入る散々敗らる遁る者至る僅ふくとソレ
至近々京師より援兵大に東下する風聞あり○
未だ北方の兵敢て江戸を取戻さざる様子と為
さば○我等屢この騷亂の治平なる結局と論を
冀くは京師より格外の免許ありて會津の罪を

除き又 朝廷の議事局へ慶喜公を坐せしめん
るは是を萬々治世の策と以併し方今の形勢
との官兵と諸家脱藩人と相互ひよ激怒闘争し
る和議とあるの意更よあり実よ日本人民の為
よ憂ふがごとくありし

○
神戸カウビよりの便よ曰新居留地を先頃よりしよ追
々抄取をあり大よ豪華の模様成就しるを當時
彼所此所よ水抜の溝を掘開き埋立の人足數百
人と役使を若し此仕事只今の如くよ斷へを抄

取をよほありし速よ賣借の地面とあり然
らむ外國の移住人好よ任せよ何處へも住
居るるよ叶ふをよあり

兵庫より大坂へ往來する為の一路を開く目論
見あり我者或る役人よりける速よ取掛りよお
成るよしを聞る其道筋の山の麓よ谷ひよ
其道幅の兩車をよ挽くをよありと

○當時横濱港碇泊の軍艦名簿

英國軍艦

ヒルム

大砲三門

砲船

スナッパ 大砲三门 砲船

ラッドレル 大砲十七門 コルヘット

佛蘭西軍艦

ヘニユス 大砲二十二門 コルヘット

ジヨールン 大砲四門 コルヘット

亞米利加軍艦

モノカシー 大砲十門 砲船

ストーンウエル 大砲二門 鐵造船

アイロクオイス コルヘット

和蘭軍艦

キュラカラ

此ちど碇泊の軍艦至り少し多くなり兵庫大坂へ廻望しと云

○大政官日誌抄出

二月二十八日

皇帝陛下親しく列候と玉座近くあり 召詔し
う曰まましく朕夙より天位を紹ぎ今日天下一新
の運よりゆきそ文武一途公議を親裁を國威の
立つと立ぎると蒼生の安きと安らげると
朕が天職を尽きと盡きるととゆふをば日

夜寢食を安んじば甚だ心思を勞を朕不肖と
しつゝも

列聖の餘業

先帝の遺意を繼述し内々列藩萬姓を撫安し外
々國威を海外に耀さん事を欲せ然るに徳川
□□不軌を謀り天下解体遂に騷擾し及び萬
民塗炭の苦に陥んことを故に朕已を得を斷然
親征の儀を決せり且既に布告せし通り外國
交際も有之上に將來の所置尤重大に付天下
萬姓の為に於るに萬里の波濤を凌ぎ身と以

く艱苦に當り誓ひて國威を海外に振張し

祖宗

先帝の神靈に對せんことを欲せ汝列藩朕に及せし
るを佐々心を同ふし力を協せ各々の分を尽
し奮ひて國家の為に努力せよ

○閏四月二日より同五日との由沙汰

田安中納言

昨今の時勢に付格別苦慮尽力の事件深感
思召に猶此上見込の儀に無忌諱に萬端誠忠
可抽旨

大總督宮御沙汰之事

大總督府

辰閏四月

參謀

田安中納言

江府萬端鎮撫取締の義は委任の百有精勤旨
大總督宮御沙汰之事

大總督府

辰閏四月

參謀

此度水戸表國境へ關門を取建出入とも印鑑を
以てお改めし付く御供并に御用としは彼地

へ在越の面々の石之段の目付へお通し引合せ
印鑑請取の事

○雜説

此月四日頃より走もど行徳船橋の邊は昼夜と
あゝく大火のうらうらと炮聲あびたしく聞ゆ多分戦
争ありし

市川行徳の邊兵士の死骸多くあがき寄るよし
眞商人の吐ありし其の兵敗走せし未だ詳
らざる

江戸に滞留の先鋒總督府北及び東の方に向ひ

鎮撫とし御發向出是はし由風聞は

